



No.116 2021.7.20

明石市コミュニティ・スクールだより

人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

“軽井沢風越学園” 授業見学会に参加してみました

軽井沢風越学園は 2020 年開校した私立の小中一貫校+幼稚園の日本唯一の幼小中混在校です。義務教育学校+幼稚園ということは 12 年間の学びと育ちの連続性・継続性をねらう明石市の中学校区 UNIT のグランドデザインを考える上で参考になるのではと 7 月 14 日に開かれた授業見学会に参加してみました。

軽井沢風越学園のホームページを見てみると「大切にしたいこと」として次のようなことが書かれています。

大切にしたいこと

赤ちゃんは、たくさんの愛情を受け、身の回りのいろいろなものに関心を向けながら、まずは一人遊びをたっぷり楽しみます。豊かな一人遊びの時間を積み重ね、誰かと一緒に遊ぶことの楽しさを知ります。そして、遊びに応じていろいろな人と関わりを持ちます。そうすることで、他者や世界に興味・関心を持ち、学んでいくのです。

どんな子どもにも幸せな子ども時代を過ごしてほしい。遊びが学びへとつながっていく、この人間の自然な育ちを大切にしたい学校をつくりたい。そうした思いをベースに私たちは、3 歳から 15 歳までが一つの校舎で学ぶ「軽井沢風越学園（かるいざわかざこしがくえん）」を 2020 年 4 月に開設しました。

私たちは、講義中心の一斉授業・画一的なカリキュラム・固定的な学級編成等に代表されるような従来型の学校教育に限界を感じている一方で、子ども自身と公教育の可能性を信じています。自分はどんなことに幸せを感じるのだろうか、また自分以外の一緒に生活する仲間や生き物・自然を含めて、幸せになるってどういうことだろうか、と考え続けてもらいたいという願いがあります。

(参照：軽井沢風越学園 HP 学園のことより)

【軽井沢風越学園 HP】

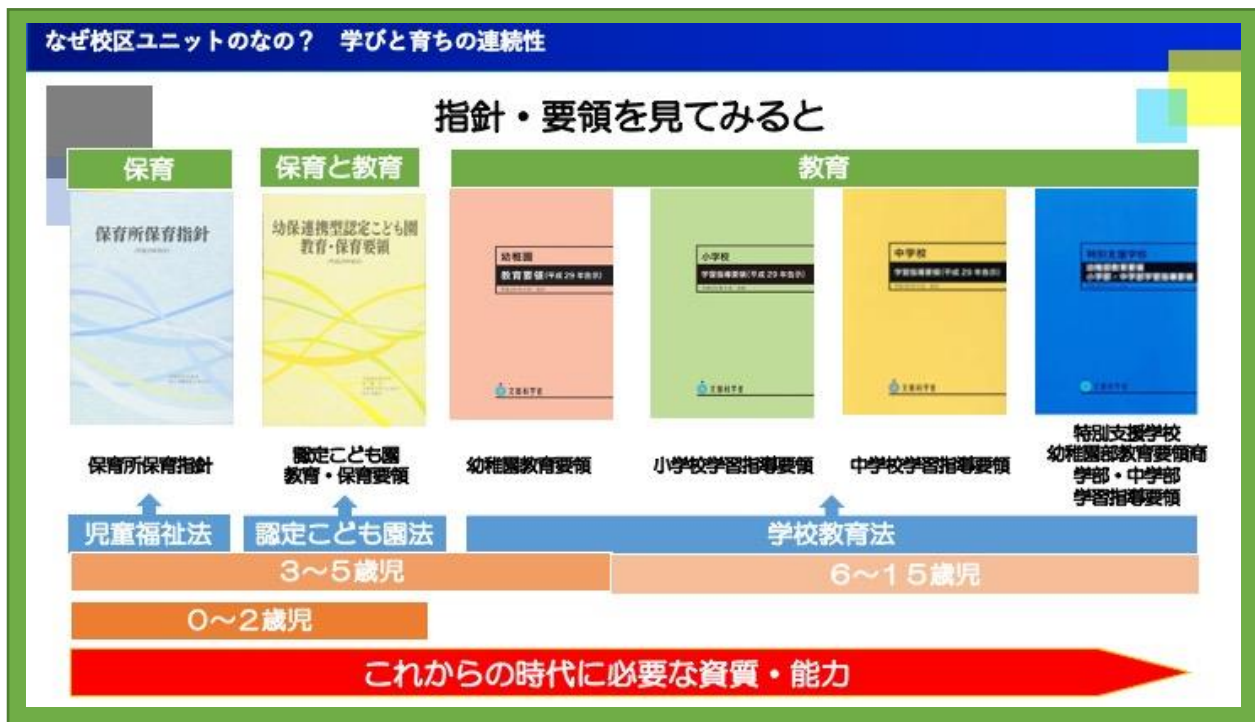
<https://kazakoshi.ed.jp/>

【日経 xwoman 軽井沢風越学園理事長×副理事長インタビュー】

<https://dual.nikkei.com/atcl/column/17/122600038/>

何も風越学園のような学校を創ろうというわけではありませんが、風越学園の大切にしていることは、就学前から小学校・中学校までの 12 年間+αの学びと育ちのグランドデザインを考える上で参考になると考えます。保育所（園）、認定こども園、幼稚園、小・中・養

護学校とそれぞれには、“保育所保育指針”“認定こども園教育・保育要領”“幼稚園教育要領”“小学校学習指導要領”“中学校学習指導要領”“特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領”があります。今回の改定により、幼稚園・認定こども園だけでなく、保育所にも「幼児教育を行う施設」という記述が入りました。そのことにより就学前教育から“①知識・技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力・人間性”の3つの資質・能力＝“生きる力”を一体的に育てていこうという柱が通りました。



風越学園は3歳から15歳までの幼小中混在校として「じっくり、ゆったり、たっぷり、まざって」学びと育ちが連続する学びのデザインを考えられています。授業見学会の中で、鶏を飼うための小屋づくりに取り組む子どもたちの様子が紹介されました。鶏小屋の模型を作成している場面でした。一度自分たちで調べ考えた鶏小屋の模型を作り、それを実際に養鶏業者の方にみていただいたところかなり厳しい指摘を受けたそうです。そこから子どもたちは指摘されたことを解決するために、再度図面を引き直し、再度模型の作成に取り組んでいるところだったようです。その図工室では他の学年のプロジェクトチーム別の探究を行っており、まさに「じっくり、ゆったり、たっぷり、まざって」なんだなと感じました。子どもたちは“つくる”という経験の積み重ねの中で「未来をつくるという冒険」をしているんだなと思いました。

風越学園は幼小中の3歳から15歳までの子どもたちが混在しており、スタッフも保護者も地域の方も風越学園の“大切にしたいこと”は共有されやすい面があると思います。それだけに、校区 UNIT では12年間+αで「これからの時代に必要な資質・能力」を培っていく上で“大切にしたいこと”を対話の中で創り上げ、学校園所の教職員がまずそれを共有し、保護者・地域に向けて発信していくことが必要であり、地域全体で子どもを育てていくという意識の耕しになるのではと考えます。そうした対話が各 UNIT でスタートしたらいいなと思います。その前に各校園所で対話を始めてみるのはいかがでしょうか。試行錯誤し、“よりよくあろう”とし続けていける UNIT になりたいですね。（文責：北本）